

## サフィードシリコーンバルーンカテーテル・温度センサー付

近年、術中・術後（ICU、CCU）において、患者の体温管理の重要性が認識され、種々の方法で測定されるようになってきている。また、体外循環装置を用いた全身温熱療法や低体温下の心臓手術にも、その温度制御のため体温管理が重要となっている。

患者の体温を測定する場合、測定部位によって温度が変わってくるが、真の体温に近いものとしては内腔温が良いとされており、中でも外部から測定可能な部位として、直腸・食道・膀胱が知られている。

一般的には直腸に温度プローブを挿入し、直腸温をモニタリングする方法が多く用いられているが、直腸温は宿便などの外的影響を受けることがある。

そこで、直腸温にくらべて外的影響を受けにくい膀胱温に着目し、サーミスタ製造技術とバルーンカテーテル製造技術を生かして、従来のサフィードシリコーンバルーンカテーテルに温度センサーを組み込んだ『サフィードシリコーンバルーンカテーテル・温度センサー付』を開発した。

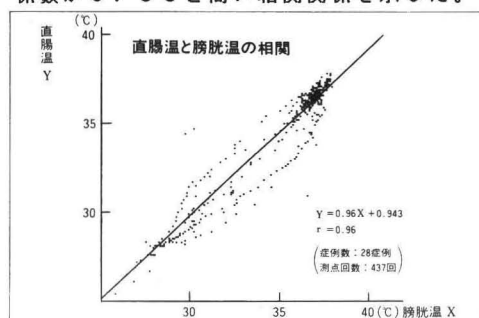
### 1) 主な特徴

『サフィードシリコーンバルーンカテーテル・温度センサー付』は、術中・術後の患者体温管理と導尿が同時に行なえるほか、下記に示す特徴を有している。

- ①測定部位が膀胱内であるため、呼吸、宿便などの影響がない。
- ②カテーテル内のリード線が蛇行状に収納されているので、断線が起こりにくい。
- ③直腸温プローブを挿入する必要がなく、患者への負荷が軽減される。

### 2) 直腸温と膀胱温の相関

28症例に437回の測定を試み、直腸温と膀胱温の相関について調べたところ、相関係数が0.96と高い相関関係を示した。



### 3) 体温モニター

本製品は、専用ケーブルを用いて、テルモファイナC T M - 303に接続するだけで膀胱温を連続的に測定し、体温のモニタリングを行なうことができる。

また、コアテンプC T M - 205にも対応し、測定値を連続的に記録することも可能である。